学校保健

（題字は元北海道学校保健会会長　吉田　信）

発　行
公益財団法人北海道学校保健会
札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館5F
☎（011）　221-5240

「年頭にあたって」

北海道学校保健会　会　長
北海道医師会　会　長　　長　瀬　　清

新年あけましておめでとうございます。初春を迎えるにあたって、ひと言ご挨拶申し上げます。

日頃より、学校保健・学校安全にご尽力をいただいている皆様方に、心より敬意と感謝を申し上げます。

昨年は空知管内砂川市において、第66回北海道学校保健・安全研究大会を開催することが出来ました。開催にあたって多くの関係者の皆様にご尽力頂きましたことをこの場をかりてお礼申し上げます。また、今年は渡島管内函館市におきまして、第67回北海道学校保健・安全研究大会を開催する予定です。多くの学校保健関係者の皆様のご参加を期待しております。

今日、社会環境の急激な変化、人々の日常の生活様式等の変化が、成長期の子どもたちの「こころ」や「からだ」の健全な発達に様々な影響を与えております。とりわけ、薬物乱用、性の逸脱行為、肥満や生活習慣病の兆候、いじめや不登校、メンタルヘルス、アレルギー疾患、感染症など様々な課題が問題になっています

こうした子どもの健康課題に対して適切に対応するためには、学校と保護者や地域、そして関係機関を結ぶ組織である学校保健委員会の活性化が求められています。

学校保健委員会は昭和33年6月16日付文部省体育局長通達「学校保健法及び同法施行令等の施行に伴う実施基準について」の中で、「学校保健計画は、学校保健法、同法施行令および同法施行規則に規定された健康診断、健康相談あるいは学校環境衛生などに関することの具体的な実施計画を内容とすることはもとより、同法の運営をより効果的にさせるための諸活動、たとえば、**学校保健委員会の開催**およびその活動の計画なども含むものであって、年間計画および月間計画を立てこれを実施すべきものである。」と記されています。

また、平成20年1月の中央教育審議会答申においては、「学校保健委員会は、学校における健康に関する課題を研究協議し、健康づくりを推進するための組織である。学校保健委員会は、校長、養護教諭・栄養教諭・学校栄養職員などの教職員、**学校医**、**学校歯科医**、**学校薬剤師**、保護者代表、児童生徒、地域の保健関係機関の代表などを主な委員とし…」と記されています。

北海道における学校保健委員会の設置率は小学校で95.9%、中学校96.6%、高等学校100%となっていますが、その多くは校内だけの委員会となっているようです。多くの学校において関係機関との連携を図った学校保健委員会となるよう取り組んで欲しいものです。

本年も学校・家庭・地域社会の関係者と三師会はじめ関係機関が英知を結集し、強力な連携のもとに児童生徒の健康・安全の保持・増進に努めて参りますので、ご支援・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

目　次

○巻頭言　「年頭にあたって」
北海道学校保健会会長　北海道医師会会長　長　瀬　清……1
○第66回北海道学校保健・安全研究大会　空知（砂川）大会の報告……2
○企業から寄附をいただきました……3
○第38回北海道学校歯科保健研究大会の報告……4
○保健室シリーズ　「保健室掲示で性教育にチャレンジ！～自分のからだの主人公になろう～」
北見市立緑小学校　養護教諭　佐々木　さとみ……6

第66回北海道学校保健・安全研究研究大会空知（砂川）大会の報告

平成30年10月21日（日）ＪＲ砂川駅に直結した砂川市地域交流センター「ゆう」を会場に、全道各地から232名の参加を得て「北の大地を生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる子どもの育成を目指して」を大会主題として、～稔り豊かな空知の地、安心の医療で笑顔輝く街砂川から、新しい時代を切り拓く子どもたちの生きる力をはぐくむために～をテーマに開催された。

【第66回北海道学校保健・安全研究大会開会式】

開会式では、土屋政希実行委員長による開式の言葉に続き、北海道教育委員会　佐藤嘉大教育長、公益財団法人日本学校保健会会長（代理／弓倉整専務理事）、公益財団法人北海道学校保健会会長が主催者として挨拶を行い、引き続き来賓として、空知総合振興局長、砂川市長が祝辞を述べた。

大会長挨拶に立った、北海道学校保健会　長瀬清会長は、「健康としあわせ広がるふれあいのまち」づくりを目指している砂川市の取組をアピールするとともに、

「社会生活の多様化等により、児童生徒の抱える健康課題は多岐にわたります。こうした課題の解決を図り、生涯を通じて健康な生活を営んでいく資質や能力を育成することが、ますます強く求められています。平成29年3月に改訂された新学習指導要領では、社会に開かれた教育課程の実現が強く謳われています。また、実施に当たっては、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させることとされています。

これらのことは、学校保健のより一層の充実を図るために、学校と家庭・地域社会が連携・協働して取り組む方向性と一致しており、今後は益々重要になってくると考えます。」と、学校と家庭、地域社会の連携について触れるとともに、

「この後の部会別研究協議では、幅広い分野の方々の日頃の研究や実践に基づいた協議を通して、実りある成果を期待します。」と結んだ。

学校保健功労者表彰では、永年にわたる学校保健や学校安全の充実にご尽力された功績を称え、学校医42名、学校歯科医73名、学校薬剤師26名、教職員３名の計144名の方のうち、受賞式に参加された15名に長瀬会長より表彰楯が授与された。受賞者を代表して、札幌市学校医の竹田　明　氏が「本日のこの受賞を契機に、心を新たにし、本道の学校保健、学校安全の充実・発展に努力致す所存でありますので、今後とも関係各位のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。」と謝辞を述べた。

最後に、31年度開催地の函館市教育委員会教育長　辻　俊行　氏より、大会開催に向けての準備体制整備を進めているとして、多くの参加を期待しているとの挨拶があった。

続いて、『学校における感染症対策～麻しん、インフルエンザ、感染性胃腸炎などを中心に～』と題して、社会福祉法人恩賜財団済生会支部　大阪済生会中津病院臨床教育部　部長兼感染管理室長　安井　良則　氏による基調講演があった。

午後から３つの部会に分かれて、研究協議の視点に基づいた提言をもとに、教職員・ＰＴＡ会員・医療関係者・学生を交えて協議が進められた。

この度の空知（砂川）大会は、砂川市教育委員会をはじめ、多くの先生方により実行委員会が結成され、砂川市はもとより管内の校長会・教頭会がバックアップ態勢をとり、開催準備・当日の運営等に取り組まれた。

部会別研究協議の概要

第１部会　「学校経営と組織活動」

●砂川市立北光小学校
「組織的な学校運営の取組」

●北海道砂川高等学校
「老後を安心して暮らせる地域をめざして
～救急・医療・介護福祉現場の方々の
熱意から高校生が学んだこと～」

◆研究の成果と課題

○　スタッフの経験に頼るだけではなく、関係機

関と情報を交換することにより指導方針に確信が持て、保護者からの理解を得ながら進めることができている。また、保健室の情報センターとしての機能を生かし、教室の様子以外での児童の様々な情報を収集・共有し、早期にケアが必要な児童に対応することができた。

○　「学校保健安全計画」の見直しを定期的に行い、児童が健やかに安心して学べる総合的な健康づくりができるように仕組みづくりが必要である。

○　講習会で直接関わった医師や救急隊員の熱意に応え、実際に災害時や傷病者発見時に勇気をもって行動できるきっかけを与えた。今後においても、学校保健安全委員会等で協議しながら、学校教育活動全体を通じて組織的・計画的に取り組んでいく必要がある。また、対象が３年次の希望者に限られることから、他の保健講話のように学年全体に広げながら、事前・事後指導の充実を図り、カリキュラム上に位置づけることができれば望ましい。

第２部会「保健管理・保健教育、安全管理・安全教育」

●砂川市立中央小学校
「感染症・食中毒の予防及び発生時の対応について」

●北海道開発局札幌開発建設部
滝川河川事務所　事務所長
「自然災害における避難と防災教育」

◆研究協議の成果と課題

○　重大事案が発生した際には、学校長のリーダーシップのもと、誰がどのように対応するかを明確に示し、学校安全体制を構築することの重要性について確認できた。また、栄養教諭と学級担任が、感染症や食中毒の予防に関する指導をＴＴによって取り組み、子どもが自らの安全について考え、行動できるような授業実践について交流できた。

○　学校の持続可能な教育活動全体を通じて、子どもが、自らの安全を自分自身で確保することができる教育を推進することが、何より大切になる。

○　自助・互助・共助・公助という防災の基本理念が、学校が行う安全教育の根幹となることについて再確認することができた。学校において、事前・発生時・事後の３段階の問題を想定した危機管理マニュアルの点検・見直しを行うとともに、先生方の役割を明確にして、子ども達の安全を確保するための共通理解を図ることが重要となる。

第３部会「現代的健康課題」

●砂川市立砂川小学校
「疾患をもつ児童への対応と課題」

●北海道美唄養護学校
「心とからだの相談日」の取組について
～チームで子どもを支援する～」

◆研究の成果と課題

○　ぜんそく疾患は、発作時の呼吸状況をしっかり把握する。また、子どもにぜんそくの危険性を伝えておく。アトピー性皮膚炎の対応は、誤解を生まない指導を行い、子どものうちから疾病に対する理解を深める。食物アレルギーは、学校では完全除去が望ましく、除去した給食を提供する大変さの理解を深めるために、保護者等へ調理作業等を見せることも有効である。突発的アレルギーへの対応は、エピペンを含めた実技研修を日常から行うことが大切である。様々な疾患をもつ子どもが増えてきている中、学校現場に求められることが増えてきているので、講習会等を実施し知識やスキルを身に付けてほしい。また、保護者や生徒を含めた講習会等も実施し、理解を深めてもらうことも大切である。

○　心のケアや健康相談は、事案が起きてから対応することと合わせて、日常的な心のケアや健康相談ができる学校風土をつくることにより、学校が安全で安心した環境であると全ての子どもが感じる事ができるようにすることや、多様な価値観を認め合ったり、よさに着目したりすることを通して、一人の人間として尊重され、認められているという実感により「心の居場所」づくりを進めることが大切である。

企業から寄附をいただきました

【賛助会員】

◆岩田地崎建設株式会社　様

◆株式会社アインファーマシーズ　様

【特別会員】

◆株式会社メニコン　様

◆北海道エネルギー株式会社　様

以上の企業の皆様に、本会の会員になって頂きました。
誠にありがとうございます。

第38回 北海道学校歯科保健研究大会の報告

平成30年10月12日（金）に、北海道歯科医師会と北海道学校保健会が主催する、第38回北海道学校歯科保健研究大会が、北海道歯科医師会館において、学校歯科医・養護教諭・歯科衛生士・学

生・学校保健関係者等多数の参加を得て開催した。

北海道歯科医師会藤田一雄会長は挨拶の中で、「家庭で実施する歯みがき、甘味食品の制限等の生活習慣・食習慣等の改善により、むし歯は減少傾向にあります。ただ、北海道では未だに多くの子供たちがむし歯に罹患しており、平成29年度における北海道の12歳児の一人平均のむし歯本数は1.5本と、全国平均の0.82本よりも多いのが現状です。

8020ハッピープランでは、1.0本以下を目標としており、まだまだ課題が多いところです。このような現状を鑑みますと、子供たちの歯・口腔の健全な育成のためにはフッ化物洗口は継続性にも優れ、また平等に恩恵を受けられることから、本格的なむし歯抑制が期待できると考えております。

実施している多くの自治体においては顕著な実績を示している事から、フッ化物洗口の普及を図ることは子供たちの口腔保健の向上に大きく寄与できると考えています。北海道、北海道教育委員会、北海道歯科医師会は実現に向けて取り組んでおりますが、学校歯科関係者、養護教諭の皆さまの協力なくして実現は不可能です。

子供たちの未来を考え、我々はフッ化物洗口の普及推進に努めておりますので、皆さまにもご理解ご協力をいただけますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。」と語り、学校におけるフッ化物洗口の更なる推進を訴えた。

続いて、平成30年度北海道歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール受賞作品の表彰を行った。全道180校から寄せられた6,374点の作品の中で二次審査に残った153点から２名に北海道知事賞として、表彰状と記念品を授与した。

◆北海道知事賞

【低学年の部】

帯広市立明和小３年　　平　岡　怜　大

【高学年の部】

稚内市立潮見が丘小５年　　小山田　　蒼

他の受賞者は次の通りです。

◆北海道教育長賞

美唄市立茶志内小２年　　及　川　那　朗
中標津町立丸山小２年　　大　森　颯　介
函館市立中部小４年　　角　　由　奈
北広島市立東部小６年　　池　松　隼之介

◆ＨＢＣ賞

室蘭市立旭ヶ丘小２年　坂本天心
室蘭市立地球岬小２年　岩城幸奈
北広島市立北の台小６年　山下凛
苫前町立苫前小５年　阿部隼也

◆北海道新聞社賞

室蘭市立喜門岱小１年　鈴木六花
千歳市立駒里小３年　増渕蒼桜
中標津町立中標津東小６年　前田薫子
中標津町立中標津東小６年　鳴海祐

◆北海道歯科医師会長賞

稚内市立大岬小３年　福井涼香
稚内市立稚内中央小３年　井須桃子
札幌市立白石小６年　後藤優渚
函館市立金堀小５年　太田ここみ

表彰をうける平岡　怜大さんと小山田　蒼さん

◆佳作

札幌市立北光小１年　赤坂和音
今金町立種川小１年　尾形祐人
函館市立神山小２年　石津龍之介
旭川市立神居東小３年　山本千代
小樽市立朝里小３年　山岸小雪
網走市立中央小１年　村上心瑚
室蘭市立知利別小１年　久保愛友実
伊達市立伊達小２年　田中千尋
白糠町立庶路学園３年　竹本涼太
余市町立大川小１年　松浦美沙希
余市町立大川小１年　和田心
苫前町立苫前小１年　新村董生
苫前町立苫前小３年　新村秀斗
苫前町立苫前小３年　下田かのん
稚内市立潮見が丘小３年　小山田蒼空
美唄市立茶志内小２年　丹羽依桜璃
苫小牧市立明徳小２年　西村美穂
北広島市立大曲東小２年　西村郁人
札幌市立定山渓小学校４年　山崎日菜
旭川市立啓明小４年　佐々木愛理
滝川市立滝川第三小４年　谷本凌都
滝川市立滝川第三小４年　木田莉緒
砂川市立中央小６年　増井ひなた
小樽市立幸小５年　小山内大吉
湧別町立中湧別小４年　空美里
紋別市立潮見小６年　及川里音
音更町立鈴蘭小５年　斎藤桃子
登別市立登別小４年　飯尾真妃
伊達市立長和小６年　石澤花菜
釧路市立湖畔小４年　赤川莉央奈
釧路市立中央小６年　仲谷瑠花
別海町立別海中央小６年　干場悠生
余市町立大川小５年　小林佳暖
北海道美唄養護学校５年　竹村龍
美唄市立中央小６年　西脇陽菜
北広島市立大曲東小４年　佐藤伊吹

引き続き、北海道学校歯科保健優良校の表彰式を行った。最優秀賞には札幌市立定山渓小学校、優秀賞には登別市立登別小学校が、ＨＢＣ賞には、札幌市立新琴似北小学校、札幌市立定山渓中学校の２校が、奨励賞には、苫小牧市立若草小学校、根室市立厚床小学校の２校が選ばれた。

この後、医療法人社団北野通り眼科院長の中田勝義先生による「北海道の学校における色覚検査の現況と対策」、医療法人社団恵幼会わたなべ小児科・アレルギー科クリニック院長の渡辺徹先生による「歯科医の知っておきたいアレルギーの知識～食物アレルギーを中心に～」についての講演が行われた。

中田　勝義　先生

渡辺　徹　先生

保健室シリーズ

保健室掲示で性教育にチャレンジ!
～自分のからだの主人公になろう～

北見市立緑小学校
養護教諭　佐々木　さとみ

1　はじめに

養護教諭になって6年目。現任校は2校目で、異動してきて2年目です。着任した昨年度は、児童や教職員の実態をしっかりつかめずに過ぎ去った1年間でした。でも、しっかり見ようと目を凝らしていたように思います。

そんな中で子どもたちに感じたのは、『自分のからだなのに、自分のものじゃないみたい。』という違和感でした。けがをしても他人事のよう。「わからない」「しらない」「先生(親)に○○してもらってきなさいって言われた」など、問診の難しさを感じ、会話がかみ合わないこともしばしば。それはどの学年にも共通することでした。また、保護者の考えで髪の毛を染めていたり、ピアスの穴をあけていたりと、自分のからだについて自己決定(権)を保障されていない子どもが多いと感じました。

この子たちは、自分を大切にしているのだろうか。大切にするとはどういうことなのか、実感できるのだろうか。そういった思いから出発して、『自分のからだの主人公になろう』を今年度の一貫したテーマとしました。

2　何が必要なんだろう―準備・計画

子どもたちが心とからだの主人公になるためには、性教育が必要だと考えました。しかし、授業として扱うのは、時数の確保や、何を・どこで・どのように扱うのかなど、クリアしなければならないことが多く、難しいと悩んでいました。授業ではない方法を…と考えたとき、掲示という方法に至りました。掲示は全校児童も教職員も見るものです。また、保護者や来客が目にすることもあります。

まずは教職員の理解が必要だと考えました。前年度の3月に、掲示を使用した性教育を口頭で提案しました。提案が通り、いよいよ具体的に考えることになります。

そこで考えたのは、次の4つ。①性教育の必要性、②目指す子どもの姿、③掲示のメリットと配慮する点、④内容の精選（テーマとねらい）です。

世界から見た日本の性教育の現状や、性教育の効果を示すデータ、学習指導要領と性教育がどのようにつながるのか、そもそも性教育とはなんなのか…。勉強する中で、この掲示の指針としたのは、所属しているサークル（“人間と性”教育研究協議会）の柱である「科学・人権・自立・共生」と、『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』でした。

結果、以下のように計画し、教職員向けに“ほけんだより”を作成・回覧しました。

今年度の保健室掲示計画　　テーマ「自分のからだの主人公になろう」

育てたいのは、自分を大切にする気持ちと、人権感覚です。

月	内　容	ねらい
4	大切なものには名前があるよ。（からだの各部の名称）	○からだの名前と場所がわかり、ケガをしたとき等、必要な時に言うことができる。
5	からだを清潔に。（部位に適した清潔の方法）	○からだの汚れをきれいにする方法がわかり、実践できる。
6	男の子、女の子	○性別は、「好きな色」「服装」「職業」「遊び」などでは区別できないことを知る。
7 8	境界線ってなんだろう。（パーソナルスペースとは）	○人には、関係性によって心地の良い距離感があることを知る。
9	成長するからだ（成長ホルモンのはたらき）	○からだの成長には、規則正しい生活が大切であることを知る。
10	体の中のスーパーマン（免疫のはたらき）	○からだには、病原体と戦う力があることを知る。
11	こころの健康（ストレスへの対処）	○ストレスには、自分の成長につながるものと、自分を不調にさせるものがあることを知る。 ○悪いストレスに対処する方法を知る。
12 1	おへそのひみつ（胎児の成長）	○おへそは、お母さんから生まれたしるしであることを知る。
2	つながり地図をつくろう。（つながりの中で生きている私）	○自分と人やモノとの関わりに注目させ、つながりの中で生きている自分を発見する。
3	卒業・進級スペシャル	○1年間を振り返るとともに、次の学年への希望をもたせる。

“保健の主人公”になるために、まずは“自分のからだの主人公”になるため、年間を通して上記のような内容での掲示を計画しました。その月の保健目標や、その時期に子ども達が学習する内容も考慮して、計画しています。

季節掲示ではなく、年間を通して一貫したテーマで掲示をすることが初めてです。授業のように導入・展開・まとめを掲示板の上でしたいのですが・・・。単なるお知らせではなく、子どもが意見を交流できるような、「子ども達といっしょにつくる掲示」を目指して、やってみます。

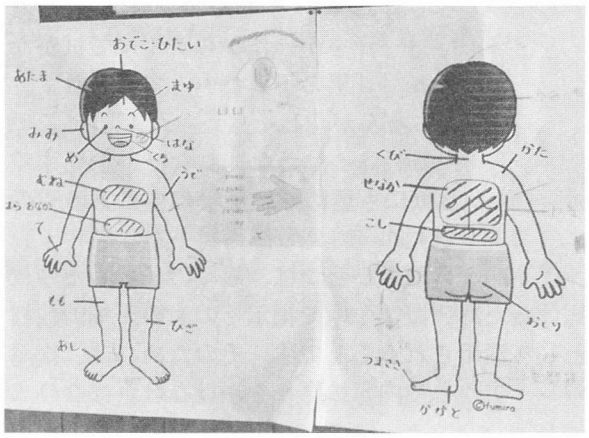
内容に関してお気づきの点や、「こんなふうにやってみるといいよ！」というご意見がありましたら、佐々木へ教えていただけると助かります。

3　よし、やってみよう―実施

掲示をするうえで絶対に守りたいのは、「誰も傷つかないこと」です。正しい情報でも、それによって傷つく人がいてはいけない。見る人が受け入れられるかどうかは、「安心・安全」であることが一番大切だと思っています。ですから、表現や言葉の選び方、情報の取捨選択には気をつけています。

また、掲示を単なる“お知らせ”にするのではなく、子どもたちが意見を書き込むなどして“子どもと一緒に作る掲示”を目指しています。前任校で各学年に授業をしていた指導案を参考にしながら、テーマごとにめあてや課題を設定し、板書をするイメージで掲示をしています。

【4月】……からだの各部の名称



まずは拡大コピーした子どもの絵を用意します。しかし、性別をどちらにするか、両方にするか、服を着せるか着せないか、出だしから迷いました。結局、性差をあまり感じさせない子どもの絵を採用。誰でも知っていそうな目・鼻・耳などは、あらかじめ書きました。

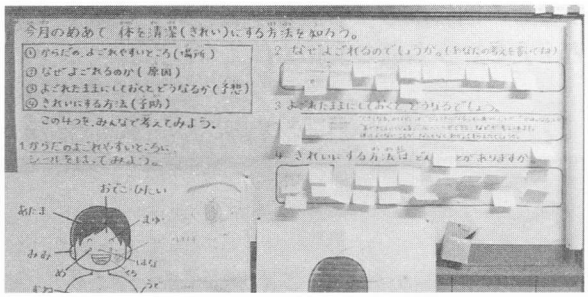
そして別の色のマジックで、子どもたちにどんどん書き足してもらいました。休み時間に子どもに問いかけ、一緒に答えを確認しながら書いてもらうことに。いいコミュニケーションにもなりました。

ちなみに、パンツの中の扱いをどうするか、性教育のサークルで意見をいただきました。その結果“パンツの中にも名前があるよ。佐々木先生に聞いてね！”と書き足すことに。

すると、いろんな反応がありました。「パンツの中にも名前があるよ、だってー。」と気にする2年生（そしてそのまま立ち去る）。「お前が聞けよー。」「いや、お前が聞けよー。」というやり取りの後、もじもじと聞いてくる子。「えー、（パンツの中の名前は）アレだよね～？」と何人かで話す4年生の女子。

5年生の女子数名は、保健室の開いた戸口で「誰が聞く？」「え～、みんなで行こうよ。」とコソコソ話し合い、「パンツの中は何て言うんですか。」と聞きにきてくれました。

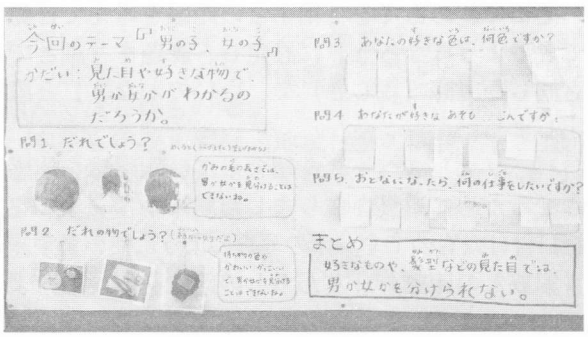
【5月】……からだを清潔に



4月に使った絵を使い、「どこが汚れやすいのか」を考えさせ、シールを貼ってもらいました。そして、「なぜよごれるのでしょうか。」「よごれたままにしておくとどうなるでしょう。」「きれいにする方法はどんな方法がありますか。」と順番に質問していきます。

付箋と鉛筆を置いておくと、みんな自由に意見を書いてくれます。「体を洗う」「お風呂に入る」は思いつく子が多いのですが、「歯をみがく」「耳そうじ」などはひとりでは思い浮かばないようでした。

【6月】……男の子、女の子



この回は、ジェンダーがテーマです。からだの違いではなく、見た目や好きなものに焦点を当てました。「見た目（服装や髪形）、好きなもの、持ち物などで男性か女性か決めつけないでね。」というメッセージをこめています。

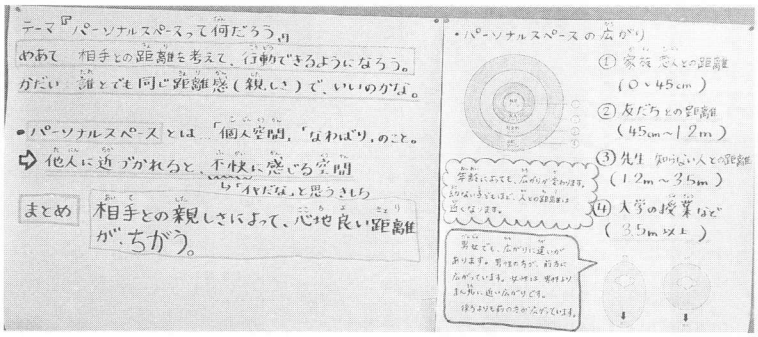
問1は髪の長い男性、細見の男性、髪の短い女性（いずれも芸能人）の後ろ姿から、性別を考えさせます。写真をひっくり返すと顔がわかるとい

うものです。

問２では、先生方から持ち物を拝借し、写真に撮って誰の物かを考えさせます。かわいい物を持っている男性もいれば、かっこいい腕時計をしている女性もいます。

その後、「好きな色」「好きな遊び」「なりたい職業」を子どもたちに書いてもらいました。いずれの質問でも、みんなの考えがある程度出たところで補足を書き込みます。特に職業については、子どもの回答から「看護婦→看護師」「保母→保育士」という名前の変化も伝えました。

【７～８月】……パーソナルスペース



なんと距離の近い子の多いこと！と驚いたことを覚えています。スキンシップを求める子が多い傾向ではありますが、人との距離ばかりではありません。友だちの持ち物でさえ、勝手に触る、何も言わずに使ってしまう。雑に扱うことを注意すると「こいつのだから別に（乱暴に扱っても）いいんだ～。」と言う始末。境界線という概念を知ってもらう必要性を感じました。

そこで、めあてを『相手との距離を考えて行動できるようになろう』に設定し、課題を『誰とでも同じ距離感（親しさ）で、いいのかな。』と設定しました。

パーソナルスペースを紹介して、距離感を体感させるために道具を作りました。軍手にリボンを縫い付けたものです。下の写真のように使います。「家族との距離」「友だちとの距離」といったように、何種類か用意して体感してもらいました。

4　今後に向けて―評価・改善

年度初めには、司書さんが「掲示とリンクした図書の紹介をしたい！」と反応してくださったり、職員が「掲示を楽しみにしてるんですよ。」と言ってくれたり、支援員さんが子どもと軍手を使って距離感を体験してくれたりと、少しずつ大人の意識も変わってきたように思います。子どもと一緒に大人も学ぶ、そんな姿が見られるのはうれしいです。

この掲示を通して、暮らしの中で性教育が生きてくることが長期的な目標です。「暮らしの中で生きてくる」というのは、「気づき」を持つことだと私は考えています。「ちんちんって言って喜んでいるなんて、赤ちゃんだね。」「汗をかいたからタオルで拭かなきゃ。」「男の子みたいって言われて、Ａちゃんが悲しそうだったよ。」「この距離感はイヤだな。」など、一見すると気にも留めない風景の中にあるものです。

中期的な目標のひとつは、多くの子どもたちに届けるため、授業の中で掲示そのものが補助教材として活用されることです。そのためには、掲示のレイアウトや内容に磨きをかけなければなりません。

また現時点では、掲示を見てくれているのは同じような顔ぶれの子たちだけ。今の目標は、見てくれた人に「なるほど！」「わかった！」「初めて知った！」と１つでも思ってもらえることです。そして、その人が「こんなこと書いてあったよ。」と友達へ伝えてくれるようになったら最高です。そのためには、継続していくことが大切だと考えています。

＜最後に＞

子どもたちに伝える方法として、授業で板書をするように、掲示板で伝えた実践を紹介いたしました。

児童の実態から見えた「自分のからだではないみたい」という課題に対し、「今できる限りの効果的な方法」を模索し、形にしたものです。児童の変化をとらえながら、中・長期目標に近づけるよう、取り組んでいきます。